

要 望 事 項

- 1.能登半島地震では、避難・屋内退避ができないことが明らかになりました。  
原発の運転停止を関電に求めること。
- 2.少なくとも30km圏内では、安定ヨウ素剤を早急に事前配布すること。
- 3.使用済燃料の原発敷地内での乾式貯蔵、及び上関町での中間貯蔵計画に反対を表明すること。

避難計画を案ずる関西連絡会 2024年3月1日

2. 原発敷地内の乾式貯蔵施設に反対を！

- 乾式貯蔵は原発の運転継続のため
- 使用済燃料が長期に敷地内にとどまり  
地元が核のゴミ捨て場になる

- ・関電は2月8日、福井県と立地の3町に、事前了解願いを提出
- ・福井知事は県民の声も聴かず、周辺の関西自治体の意見も求めず、早々に了解しようとしています

\*滋賀県、県議会から反対の声を！

1. 能登半島地震を踏まえれば、原発事故との複合災害では避難できず被ばくする。避難計画は絵にかいた餅。原発は停止すべきです。

能登半島地震で損傷や異常が起きた放射線防護施設と被害

施設名	主な設備損傷や異常
① 富来小学校 →1月30日閉鎖	柱や天井損傷。防護区画で雨漏りや窓に隙間。陽圧化装置が十分に機能せず
② 富来病院	スプリンクラーが壊れ廊下など水浸しに。区画内の柱損傷。陽圧化装置の吹き出し口脱落。1月5日までに入院患者と入所者計72人転院
③ 稗造防災センター	駐車場の埋設浄化槽が地面隆起で損傷
④ 特別養護老人ホームはまなす園	スプリンクラー作動、廊下水浸し、エレベーター使用不能。防護区画内の入所者50人隣接施設に移動
⑤ 総合武道館 →1月2日閉鎖	防護区画外の武道場の天井パネル落下、崩落の恐れ
⑥ 中島地区コミュニティセンター 豊川分館	自家発電機が起動せず、数日停電

原発30キロ圏内の長浜市、高島市は山間部が多く、道路の寸断等で避難は困難を極める。  
重篤な被ばくを強いられる。

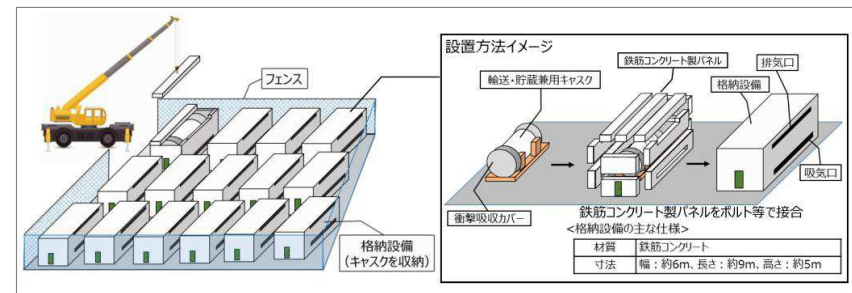
志賀町の放射線防護施設21施設の内、6施設で損傷や異常。  
要援護者は避難できない。

東奥日報 2024. 2. 22

2-1 関電の乾式貯蔵の計画

- ・ 3つの原発サイトで乾式貯蔵施設を建設予定  
高浜と大飯は2か所。美浜は1か所
- ・ 最も早い高浜では、来年から工事。2027年に運用開始

	高浜原発	大飯原発	美浜原発	現在の保管量(体)	乾式貯蔵施設の容量(体)
工期	(第一期) 2025~2027年頃	2025~2030年頃	2026~2030年頃	高浜1~4号	768
	(第二期) 2025~2030年頃			大飯3~4号	552
				美浜3号	210
				合計	7,082



2月8日関電プレスより

## 2-2 なぜ乾式貯蔵？ → ひっ迫する使用済燃料プール

※高浜原発は約3.5年後(約2027年)

プールが満杯で運転できなくなる

そのため、最初の高浜第一期分の完成予定 2027年頃と計画

関西電力の原発の使用済核燃料貯蔵状況(燃料集合体数 2024年1月31日)

原発	現在の保管量	管理容量	空き容量	1取替	残り回数	満杯になるまでの年数
美浜3号	476	652	176	52	3.4	4.5
大飯3号	1,658	1,936	278	64	4.3	5.8
大飯4号	1,741	1,936	195	64	3.0	4.1
(大飯3,4合計)	3,399	3,872	473	128	3.7	4.9
高浜1号	162	267	105	52	2.0	2.7
高浜2号	118	267	149	52	2.9	3.8
高浜3号	1,413	1,612	199	52	3.8	5.1
高浜4号	1,514	1,612	98	52	1.9	2.5
(高浜合計)	3,207	3,758	551	208	2.6	3.5

関電資料を基に作成。大飯と高浜はそれぞれプール共用

5

### ④危険性

- ・地震や津波で地盤沈下や土砂災害  
→空気取り入れ口が塞がれ、自然冷却できず、臨界事故の危険
- ・電源を使わずに自然冷却で「安全性が高い」(関電)  
→しかし、15年間プールで冷却したものしか乾式貯蔵施設には移せない。やはり使用済燃料プールも残る

### ※住民や周辺自治体への説明なしに進めようとしている

事前了解は2段階 ①国に申請する前(現在) ②審査に合格し建設する前

福井県知事は事前了解に前のめり

3月11日の県議会終了までに①を了解しようとしている

- ・「関電の提案には具体性がある」  
「すぐに中間貯蔵に搬出できる」→ 搬出先も決まっていないのに
- ・貯蔵期間は②の段階で判断。現在は確認しない
- ・県議会、協議会、県の原子力安全専門委員会、立地の町の意見を聞いて判断  
→ 住民の声や周辺自治体の意見は聴かない

7

## 2-3 乾式貯蔵のいくつかの問題点

### ①乾式貯蔵した後の使用済燃料の搬出先は決まっていない

2030年頃に「県外の間貯蔵施設に搬出」  
→ 中間貯蔵は何も決まっていない

### ②貯蔵期間も明らかではない

- ・キャスクの「設計貯蔵期間」は60年  
「ぎりぎりまで置くことは一切考えていない」(関電)
- ・2027年に高浜で完成し、50年間貯蔵すれば2077年  
その頃に動いている原発はない

### ③貯蔵容量は「原則増やさない」としながら「例外」あり

→ 貯蔵容量は増えていく

- ・関電は「原則」を強調しながら、「例外」を認めている  
例外：「エネルギーの安定供給に貢献できなくなる可能性がある場合」

6

## 3. 国の政策では、使用済燃料は再処理工場でプルトニウムを取り出し、プルサーマルで使用する事になっているが..

### ①六ヶ所再処理工場の完成延期は避けられず

2024年度上期完成は不可能。27回目の延期は避けられず

### ②プルサーマルは2024・2025年度実施ゼロ

関電を含め、全電力会社でプルサーマル実施はゼロ  
フランスでのMOX燃料製造が困難なため

電気事業連合会「プルトニウム利用計画について」(2024年2月16)

### ③原子力委員会の2018年決定

「プルサーマルの着実な実施に必要な量だけ再処理が実施されるよう認可を行う」

### ★核燃料サイクルは事実上破綻

乾式貯蔵も中間貯蔵も、貯蔵後の搬出先はなく、地元が核のゴミ捨て場に

8